

# 10. 遺伝標識技術による閉鎖性海域資源増殖推進事業

松本尚之・上利貴光・山口功・戸澤隆

遺伝標識 (DNA) による親子判別技術を導入し、マナマコの生態解明を進め、放流技術を開発する。

## I. マナマコ

### 1. 標識放流

#### 方法

漁業公社にて生産親が特定された状態で種苗生産された3群を用いて種苗放流を行った。

#### 結果

表1のとおり放流を行った。なお、生産親及び放流種苗については、現在MS-DNA分析・解析中。

表1 標識放流結果

放流日	生産親	放流場所	体長(mm)	放流個体数
H29.8.17	♀ 2個体	大村湾釜川内地先	31.1	5,000個体
	♂ 1個体			
H29.11.13	♀ 2個体	長崎市琴海地先	35.3	10,000個体
	♂ 1個体			
H29.11.17	♀ 2個体	大村湾釜川内地先	51.2	10,000個体
	♂ 1個体			

### 2. 追跡調査

#### 方法

平成27年11月に大村市地先2か所(釜川内地先, 東浦漁港沖防波)へ種苗放流以降, 放流・移動調査を月1回ペースで実施した。

#### 結果

各放流場所周辺での潜水追跡調査(枠取り調査)で得られたマナマコについて, 現在MS-DNAマーカーを用いた親子判別及び移動状況等を解析中。

### 3. 放流適地試験

#### 方法

平成29年11月13日に長崎市琴海地先(表1)において, 底質環境等の異なる4ヶ所(底質:砂泥, 砂地, 岩盤, 藻場, 1ヶ所2.5千個体)で放流し, 潜水による目視調査を実施した。

#### 結果

調査の結果, 藻場での残存個体が多く, 放流適地としての有効性が考えられた。

(担当: 松本・戸澤)